

『君はオーガニック』

◇登場人物

・男1

・女1

・男2

男1の部屋。

男1、テーブルの上に食器を運んでいる。

女1、出てくる。

女1 おはよう！

男1 あ、おはよう！

女1 はやいね。

男1 ああ、まあいつもこんくらい。

女1 え、今日、日曜日なのに？

男1 そうだね、基本いつも、

女1 すごいね。昨日あんなに飲んだのに。何時くらいまで飲んでたわけ？

男1 たぶんね、ほんと、家着いたのが2時過ぎてたはず。

女1 (携帯を見て) へ？ 何時に起きたの？

男1 6時。

女1 早！ え、いま9時だよ？

男1 うん。

女1 6時からずっと起きてるの？

男1 え、そうだよ？

女1 えー！

男1 そんな驚く？

女1 はやい！ 凄いね！

男1 凄いのかな？

女1 早く起きて何してるの？

男1 え、ご飯作ったり。

女1 へえ、え？ 朝ごはん作ったの？

男1 あ、うん。食べる？

女1 え、いいの？

男1 もちろん。

女1 やったー！ ありがとう！

男1 座ってて。

女1 え、手伝うよ。

男1 大丈夫大丈夫、座ってて。

女1 あ、ありがとう。

女1、座る。

男1、二人分の皿を持ってテーブルへ。

二人テーブルを挟んで向かい合っている。

女1 (皿を見て) へえ、いつも自分で作るの？

男1 まあ。つていつても今日はフレンチトーストだけだね。あとフルー

ツとかだから、料理ってほどでもないけど。

女1 へえー、こういうの朝ごはんなんだ。なんか女の子みたいだね。

男1 そうかな？ でも一人暮らしだったら適当になっちゃうさ、ご飯って。だからちゃんと健康面とか考えてやろうと思ってる。

女1 へえー、偉いね。

男1 豆乳大丈夫？

女1 はい？

男1 このフレンチトースト豆乳で作ったわけさ。ヘルシーだし。

女1 へえー。

男1 で、あとフルーツもビタミンとか補給できるから、特に朝に摂ると良いみたい。バナナとかは腸にも良いらしいよ。一緒に入ってるヨーグルトも低脂肪だし、グラノーラもオーガニックだし。

女1 ふうん、なんか詳しいね。

男1 うん、いろいろ調べたらハマっちゃって。あ、ごめん、食べようか。

女1 あ、うん。

二人 いただきます。

男1、食べ始める。

女1、固まっている。

男1 (気付いて) 食べないの？ 嫌いだった？

女1 え、ううん。

男1 あ、大丈夫だよ！ このパン普通の小麦のやつじゃなくて、ちゃんと全粒粉のやつだから。

女1 あ、そうなんだ。

男1 あ、あと、油も。このフレンチトースト焼いた油。あれもココナッツオイルだよ。身体に良いオイルって最近人気だけわけ。(コップを指して)あとこれもレモネードんだけどさ、知り合いの農家からもらった無農薬のレモンで作ってるやつ。

女1 あ、そうなんだ。

間

男1 え、どうしたの？

女1 うん……うんとさ、昨日の話んだけどさ……

男1 うん。

女1 ご飯食べてる時の。

男1 うん。

間

《空間がレストランに変わる》

男2、登場。水差しを持っている。レストランの店員。

男2 お冷、お入れしましょうか？

女1 あ、お願いします。

男2、二人のコップに水を入れている。

女1 ありがとうございます。

男1 (会釈)

男2 空いているお皿、お下げしてもよろしいでしょうか？

女1 あ、はい。(男1を一瞥)

男1 (無言で頷く)

男2、皿を持って下がる。

男1 (一口飲み) この水さ、絶対水道水だよ。

女1 え、そうなの？

男1 うん、たぶん。自分でミネラルウォーター持ってきたらよかった。

女1 ふうん。

男1 ……明日休み？

女1 え、うん。なんで？

男1 いや、この後とか、なんか、どうしようか？

女1 あー、どうする？

男1 飲む？

女1 お酒？

男1 うん。

女1 え、飲みたい！

男1 あ、じゃあいつも行くバーがあるんだけどさ、そこ行く？

女1 うん！ ……あ、でも飲めないんじゃない？

男1 ん？

女1 (男1を差し、運転する動作) 車。

男1 え？ あ、そうか。家まで送らんといいけんもんね。ああ、どうしよ。

女1 ー。

男1 ……泊まる？

女1 え、うん。いいの？

男1 え？ いいの？ 逆に。

女1 もし大丈夫なら泊まりたい。

男1 あ、全然いいよ！

女1 ……あ、でも、何もしないよ(苦笑)

男1 あ、うん。

女1 ……一応なんか、そんなつもりないわって感じかもしれないけど、やっぱりのとか付き合っていない人と。そういうのはしないって決めてて。

男1 うん、そうだね。大事だもんね。

女1 泊めてとか言っというて何言ってるばとか思うかもしれないけど。

男1 ううん、全然。俺も何もしないし。

女1 うん、ごめんね。

男1 ううん、全然全然。

間

部屋に戻る。

男1 ってところの話？

女1 え、違う。

男1 違うの？

女1 違うよ。

男1 え、そうなの？ 付き合っていない人とはやらないよ、って言ったのに普通にヤツたから、しかも3回も。だからその話かと思った。

女1 や、別にやるのとかはそんなに全然あれなんだけど。

男1 え、そうなの？ ヤツたから付き合おう？って話かと思った。

女1 いや無理無理無理。

男1 え、なにが？ なんで？

女1 いや無理でしょ、付き合うのとか。

男1 え、なんで？ あんまり気持ち良くなかった？

女1 いや、良かったよ全然。

男1 おお……え、じゃあなんで？ ってか、好きな人とかそういうことしないとかって言ってたさ。

女1 一応言うでしょ、普通、思ってたんですけど。女子ってそうでしょ？

男1 え、じゃあ俺のこと好きじゃないの？

女1 うん。

男1 え？ 俺めっちゃ好きなんだけど、ゆるりのこと。

女1 へえ。

男1 へえ、って。

女1 いや、あいかも、とかってちよつと思っただけだし、でもなんだろう……一応さっき話そうとしてたのがこの話なんだけど……あ、考えたらご飯食べてる時じゃなくてあれだ。バーでだ。バーでしゃべってる時に、そういういえば明日どこか行く？みたいな話してた時があったさ、

男1 うん。

《時間・空間が昨夜のバーに変わる》

男2、出てくる。

男2 すみません、大城様。(男1「あ、はい」実はですね、あの、団体のお客様のちよつとご予約が入ってしまったんですね(男1「あー、

はいはい」なのであ、カウンターのの方に(男1「あ、いいですよ全然」。

男1 (女1に) 大丈夫でしょ？

女1 うん全然。

男2 すみません、ありがとうございます。

男1、女1、立ってカウンターに移動する

男1 (移動しながら) 明日とあって、なんか予定あるの？

女1 いや、特に。

男2、テーブルの上と、テーブル自体を片付けている。

女1 あ、あったや。

男1 なに？

女1 選挙。

男1 あー、県知事選。

女1 そうそう。

男1 ハガキ持つてる？

女1 うん。

男1 じゃあ明日一緒行く？

女1 え、でも投票場所違うでしょ。

男1 俺のそこ行つて、でゆうりのそこ行つて、でいいんじゃない？ 別に

逆でもいいけど。

女1 ああ。

男1 でその後どっか行くとか。

女1 いいね、ご飯行こう。

男1 いいよ。

女1 なんかもー娘。の歌でさ、ウチの家じゃ投票行つて外食するんだ、

みたいなのがあったのわかる？

男1 あー、なんとなく、はいはい。

女1 私の家さ、朝マックだったわけそれが。朝早起きして投票行つてか

ら、必ず朝マックするっていう。

男1 へえ、そうなんだ。いつも？

女1 うん。なんか懐かしいなあ、あ、ねえ、明日朝マックしない？ 選

挙行つた後。

男1 ああ、マック……。

女1 したら早起きしないとだけ。

男1 ……ああ、うん。

間

男1 明日投票する人決めてるの？

女1 あ、うん一応。

男1 へえ、誰？ もし言つても大丈夫だったら。

女1 ああ、真栄田さん。

男1 へえ……なんで？

女1 この間すき家で会つてさ、真栄田さんと。会つてっていうか、一方

的に見ただけなんだけど知り合いでも別じゃないし。でそのときに真栄

田さんが注文してたのが三種のチーズ牛丼だったわけ！ わかる？

(男1 「うーん」あれ超おいしいわけ！すき家行つたらいつもあれ

頼むわけさ私。だから一緒！真栄田さん！とか思つて！

男1 それで投票するの？

女1 うん。

男1 すき家食べてたから？

女1 そうだよ。

男1 え……でも、あの人あれじゃん？ TPPとか賛成じゃん？

女1 そうなの？ まあTPPがよくわかんないんだけど。でも基地は反

対だよ。

男1 うん……でもTPP賛成つてことは、外国から添加物とかバンバン

入つた農作物が来てオツケーつてことでしょ？ 遺伝子組換えの

やつとか。もしそうならまず食の安全をどうやって保証するの、

みたいな話になるさ、そしたら――

女1 (さえぎり) もういいもういいもういい！

現在に戻っている。

女1 言いたいこと分かる？

男1 え、朝マック行かなかったから？

女1 ……うん。

男1 え、それで怒ってるの？

女1 それもある。

男1 ああ…：確かにあの、家族で小さい頃選挙の後行ってた、みたいな、そういう思い出みたいなのを、もしかしたら軽く見てるかもみたいに思われたんだったら、それはごめん。別にそういうふうではないんだけど。

女1 いや別にそれはあんまり、

男1 え？ そのことじゃないの？

女1 というよりマック自体をちよつとバカにした感じ出したじゃん？

男1 いや、バカにしたりとかはあれだけど。

女1 じゃあなんで朝ごはん作ったの？

男1 なんでって…：食べて欲しかったから。ゆうりに。俺が好きなものとか、いいって思ってるものを食べてもらいたくて。美味しいし、健康にもいいし。

女1 ……いいですか？

男1 はい？

女1 ……あなたはこの朝食で、マックを上回れるとでも？

男1 ……いや、少なくともマックよりは体に良いし。

女1 ふうん…：どれだけ体に良くて、胸糞悪いけどね、私には。

間

女1 私がこんなに体に良いもの食べたいと思う？ これ美味しいって思うと思う？ バカじゃないの？ あんた昨日、朝マック行こうっていったら「え？」って顔したじゃん。すき家の話したら「うわ」って雰囲気出したじゃん。どうせあれでしょ？ どうせ全部ファーストフードとかジャンクフードとか全般をバカにしてるんでしょ？ こんなまずいもの私に食わせやがって！ ふざけるな！ もつと美味しい食べ方私が教えてやるよ！ マヨネーズもってこい！ マヨネーズかけまくって、ぐちよぐちよにかきませたら、どんなものでも美味しくなるんだよ！ その美味しさもわからないやつが、健康とかTPPとか語らないでくれる？ わかった？ バーカ！ 勝手にオーガニックな朝食を私に食わせやがって！ 返せ！ 私の朝マック返せ！

女1、勢いよく部屋を飛び出していく。

男1、追いかける。

間

男2、マックを食べながら歩いている。

女1、走ってきて、男2にぶつかる。

女1 あ、すみません。

すぐに走り去ろうとするが、マックの袋に気づき立ち止まる。

女1 マック……

男2 へ？

女1 お好きなんですか？

男2 え……まあ……。

女1 私も……私も好きです。

女1、男2にゆっくりと近づき、抱きつく。

男2、為す術なく立ち尽くす。

間

照明F・O

了